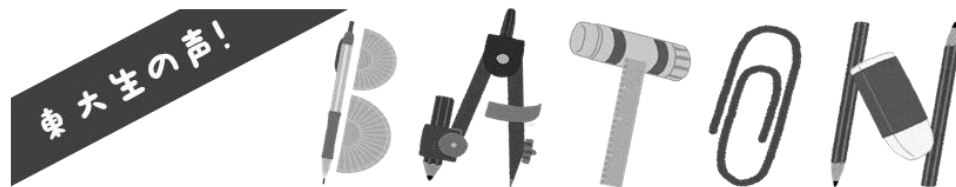


# 進路だより

発行：平成28年7月20日

## 1 B@T@N ~卒業生による進路だより~



~卒業生による進路だより~ NO. 11

### なぜ東大を目指したか？

【東京大学文化Ⅲ類／中等一回生】湯生晴子

#### 《はじめに》

みなさんには「譲れない第一志望」があるのでしょうか。

この文章では私が志望校を決定するに至った経緯を紹介させていただきます。もともとは東大のパンフレットの記事として執筆したものであるため東大アピールがやや多めですが、後輩のみなさんの進路選択に少しでも役立てば幸いです。

#### 《ジュケン…？》

1回生である私は、「受験」の文化がまだ存在しなかった附属で伸び伸びとした日々を送っていました。高校の最初の二年間は大学受験について全く考えることがなく過ぎ去って、そのまま受験生本番の高3に突入しました。「ジュケンだ、ジュケンだ」と思いつつも、夏休み前までは卒業論文の執筆に没頭し、7月は吹奏楽部のコンクールに向けて、自主練と合奏を含めると一日に10時間以上を楽器とともに過ごしていました。やっと受験と正面から向き合いはじめたのは8月、京都大学のオープンキャンパスに行ってからのことでした。

#### 《赤門ではなく鴨川に憧れて》

京大の親しみやすい雰囲気と古都の趣に魅せられた私は、鴨川沿いで過ごす大学生活を思い描きながら受験勉強にとりかかりました。幅広い分野に興味をもち、学部を決められないため、文理混合の総合人間学部を受験することを決意しました。ところが、中弛みの秋を経て焦りの冬を迎え、センター後に一度立ち止まりました。私のセンターの点数と二次試験の対応力を考えると、京大の総合人間学部よりも東京大学の方が受かる可能性が高いと複数の先生方に告げられたからです。そこで初めて東京大学を受験することをまじめに検討しました。進路資料室で東大と京大の過去問や学校紹介パンフレットを見比べ、出会う人に手あたりしだい相談に乗ってもらい、京大と東大それぞれの利点と欠点を書き出して、出願前日まで全力で悩みました。

結局、現役時代の私は東京大学よりも京都大学を選びました。京大に行ったほうが幸せになれると考えたのです。東大では入学後も進学選択という競争が待っているし、所謂「イカ東」（正しくは「いかにも東大生」、つまり…シャツイン、メガネ、痩身、人間に興味なし）の中で居場所を見つけられる気がしませんでした。一言でいうと、東大が怖かったのです。

### 《京大に振られて》

合格発表の日、京大に行って結果が貼り出されるのを待ちました。受験生が押し合う前でまるまった大きな紙が広げられ、隣にいた友達はこっちを向いて「あった！」と叫びました。「おめでとう！私はないわ！」そうやって私のはじめての受験はあっけなく幕を閉じました。

京大にしか出願していなかったため必然的に浪人が確定し、私は「なぜ京大に落ちたか」「また京大を受けると受かるのか」といった自己分析をはじめました。京大に行きたいという気持ちもちろん私の中に残っていましたが、京大の英語の試験に対する嫌悪感（入試との相性はみなさんが思っている以上に大切です）と、京大に「振られた」という悔しさから東大が再び選択肢として現れました。気持ちがかたまらないまま、予備校にはとりあえず東大コースで入学しました。

### 《生の東大に触れて》

予備校生でありながらも「第一志望は譲れない」という気持ちに欠けているのはいかがなものかと思ひ、私は生の東大を感じるために五月祭に足を運んでみました。そこで出会った東大は、私のイメージとかけ離れたものでした。赤・緑・金のファンキーな髪色が見当たるわ、出店の客引きがうるさいわ、ステージでは誰かが雄叫びをあげてるわ、突然ウェディングドレス姿の人が登場するわ…。それと同時に、屋内では著名な学者によるシンポジウムや講義が行われていて、カオスな空間でした。



今年の五月祭にて

（今度は私が東大の魅力を発信する



私は、そのカオスに安心しました。

東大も所詮、学生が好き勝手する普通の大学だということに気が付き、私がどこかで感じていた恐れは払拭されました。私のように学部選びで迷子になっている人に対して優しく、学生の可能性を最大限に引き出そうとする進学選択。イカ東を含め、それぞれが自分の「好き」を追求する東大生たち。それに希望を感じて東大を目指そうと決めた私の心は、今振り返っても、まちがってはいませんでした。

### 《最後に》

紙上の情報に踊らされず、先入観に縛られずに進路を考えてください。みなさんの「譲れない第一志望」が見つかることを、願っています。